キャリア教育　**研修担当者用資料　3**

研修担当の先生へ

・本資料は、スライド資料を使って研修を行う際の参考にお使いください。

・スライド資料を印刷し、校内研修で配布することは可能ですが、以下の点にご留意ください。

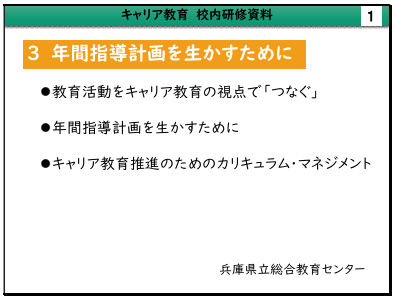
【研修資料の活用条件】

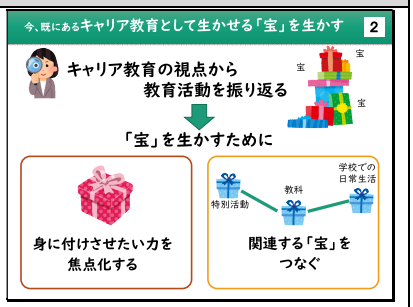
研修資料（引用している箇所を除く）は、下記の条件において活用できます。

①出典を明示する。　例：「キャリア教育研修　　県立総合教育センター」

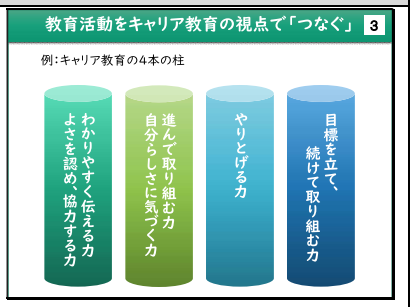
②資料全体をそのままの形態で活用する。

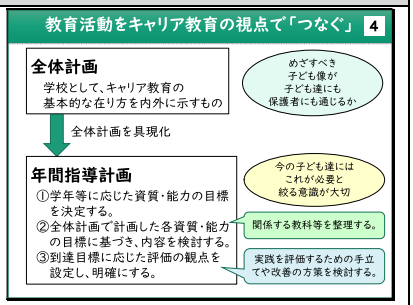
3　年間指導計画を生かすために

スライド１		
説明原稿例	・この研修は、このような流れで進めていきます。 ・キャリア教育の年間指導計画の見直しや、キャリア教育の点検・改善に向けて、キャリア教育の視点から教育活動を振り返ることを目的とした研修です。	

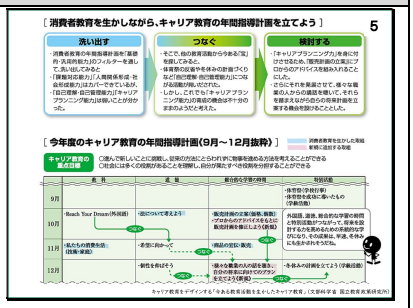
スライド２		
説明原稿例	・キャリア教育の視点から振り返る、つまり基礎的・汎用的能力のフィルターを通して教育活動を振り返ると、たくさんのキャリア教育として生かせる「宝」（キャリア教育の断片）が見付かります。 ・しかし、気を付ける点が２つあります。 １つ目は、「これまで意識はしていなかったが、キャリア教育をしているじゃないか。」で終わると、ただの読み替えになってしまいます。せっかくの「宝」がもったいないです。 ・２つ目は、４つの能力全てを網羅しようと、「あれもこれもしなければならないわけではない。」ということです。 ・では、具体的にどうすれば良いのでしょうか。 １つ目のヒントは、学校の実態に応じて、身に付けさせたい力を焦点化させることです。先に、４つの力は関わり合っているので、どれかを意	

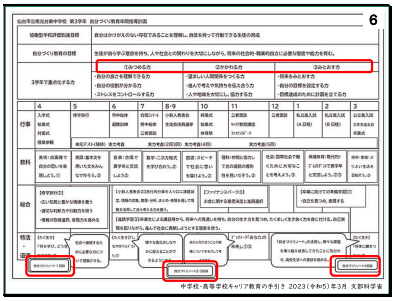
	識して引き上げようとすることで、他の力も引き上げられると言いましたが、よくハンカチや座布団で例えられるように、どれか１角を引き上げれば、他の３角も引き上げられる、そのようなイメージです。 ・焦点化する際には、日頃の教員の（主観的な）見取りの他に、アンケートや調査を通した客観的なデータによる見取りも有効です。 ・二つ目のヒントは、発見した「宝」を生かすために、関連する「宝」をつなぐということです。この「つなぐ」とはどういうことか、後で具体的にやってみます。	

スライド３		
説明原稿例	・まず、身に付けさせたい力の焦点化です。これはある学校のキャリア教育の全体計画に示されたものですが、キャリア教育で児童生徒に身に付けさせたい力が４本の柱に整理されており、基礎的・汎用的能力を基盤としながら、焦点化されています。 ・そして、この４本の柱が、児童生徒にも伝わるわかりやすい言葉で表現されている点がすばらしいです。それは、キャリア教育のねらいが児童生徒とも共有できるからです。	

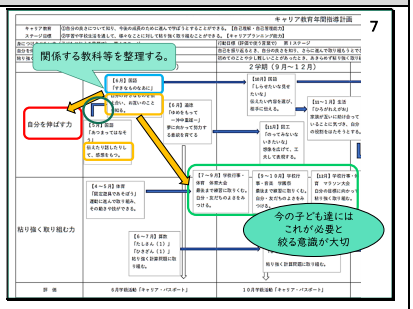
スライド４		
説明原稿例	・では、先ほどの４本の柱が示されている全体計画と、年間指導計画の違いを確認します。 ・全体計画とは、学校として、キャリア教育の基本的な在り方を内外に示すものです。よって、めざすべき児童生徒像が、児童生徒にも、保護者にも通じるかという視点が大切です。 ・ただ、全体計画は大枠を示したものですので、それを具現化したものが年間指導計画になります。 ・では、年間指導計画を立てる意義は何でしょうか。 一例を挙げると、先生どうし、共通の見通しがもてるということです。 ・ここで気を付けることは、核となる体験活動を	

	充実させたいという気持ちが強く働いて、教科をあれもこれもと関連付けようとしがちなのですが、教科の目標とキャリア教育の目標を２つともねらうわけではありません。４つの資質・能力のフィルターを通して各教科等の目標を見てみると、重なりが見えてきます。	
補足事項	・関係する教科等を整理し、教科は、あくまでも教科の目標だけをねらうことが、年間指導計画を立てる上でのポイントです。（キャリア教育の目標を後付けすると、教科の目標がずれてしまいます。）	

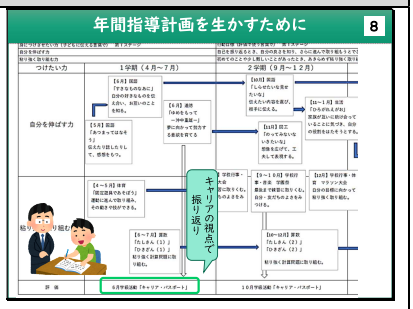
スライド５		
説明原稿例	・この具体例のように、キャリア教育の重点目標を軸に、実施時期や教育活動に沿って並べ、整理すると年間指導計画になります。 ・この年間指導計画を生かすために大切なのが、「つなぐ」ことです。担当する教科の何が、他の教科の何につながるのか、または特別活動にどうつながるのかといったことを、教員が共通理解することができ、身に付けさせたい力という「ベクトル」をそろえた指導につながります。 ・それは児童生徒にとっても、「今、自分が身に付けている力は、他の場面でも生かせる力なんだ。」と実感し、より力を意識して高めていくことにつながります。	

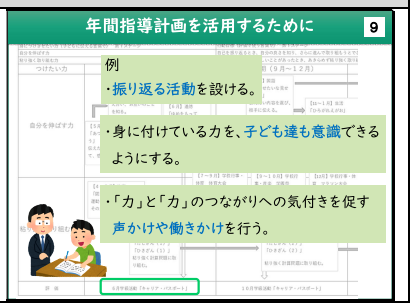
スライド６		
説明原稿例	・年間指導計画は、焦点化する力を絞った上で具体化を図るのがポイントです。それはどういうことか、具体例で見てみましょう。 ・この年間指導計画の例では、「みつめる力」「かかわる力」「みとおす力」の３つに焦点化されています。あれもこれもと欲張らず、発達段階に応じた具体的な力として書かれていることが分かります。 ・また、この例では「自分づくりノート」と記載されていますが、キャリア・パスポートに当たるノートをいつ使うかが明示されています。	
補足事項	・「キャリア・パスポート」を記入したり活用したりする時間を計画中に位置付け、「キャリア・パスポート」に基づいた自己評価を次の目標設定に生かす取組が計画的に行われると良いでしょう。	

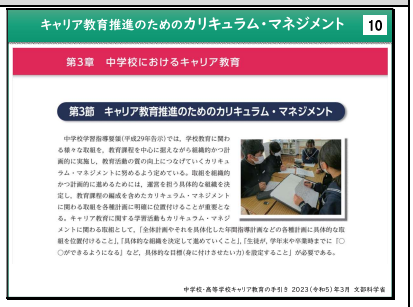
参考情報	年間指導計画の一例 ・この計画は、仙台市立南光台東中学校の第３学年「自分づくり教育年間指導計画」です。仙台市では、「仙台版キャリア教育仙台自分づくり教育」として、授業や学校行事、部活動などの様々な体験を通して、「たくましく生きる力（みとおす力、みつめる力、かかわる力、うごく力、いかす力）」を更に伸ばす教育を推進しています。南光台東中学校の年間指導計画では、５つの力のうち、３つに重点化した上で、それぞれの力の具体化を図っています。学期ごとに１回の「自分づくりノート（「キャリア・パスポート」）」を計画に位置付け、評価を次の目標設定に生かす取組を計画的に進めています。　　出典：中学校・高等学校キャリア教育の手引き P76

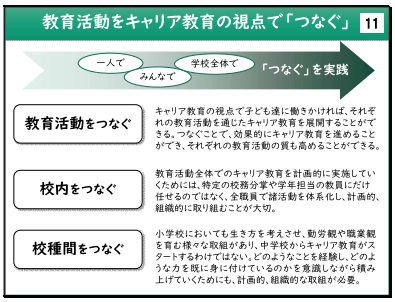
スライド７		
説明原稿例	・ここからは、年間指導計画をブラッシュアップするために、実際に先生方に考えていただきます。 ・最初に、年間指導計画の立て方を簡単に説明します。 ・教育活動をキャリア教育の視点で「つなぐ」ためには、教員があらかじめ、「どの教育活動でどういった力を育みたいのか」を考えておくことが大切です。 ・例えば、自分を伸ばす力につながる教育活動は？と考えた時に、様々な教育活動がつながるわけですが、「特にこの時期のこの教科が関係しそうだ。」と洗い出すことが必要です。その際に、それがどうつながっているのか、簡単に内容を書いておくとつながりやすくなります。 ・では、具体的にどのように結び付けていくかですが、このように、「国語　すきなものなあに」と示すだけでは、全ての先生にそれがなぜ自分を伸ばす力につながるのかということの共有が難しいです。しかしこのように、「自分の好きなものを伝え合い、お互いのことを知る」と補足があることで、自分を伸ばす力へのつながりが分かりやすくなります。こうすることで、ステージ目標①を意識できます。 ・さらに、「国語　あつまってはなそう」の「伝えたり話したりして、感想をもつ」ことと、「伝える」という共通点を見いだすことができるので、「５月に学んだことを６月の学習に生かせそうだ」とか、「体育大会での自分・友だちのよさをみつけることにもつなげられる」といったよう	

	に、見通しをもつとともに、意識する力を明確にもった指導をすることができます。 ・目の前の児童生徒にはこの力が必要と絞る意識をもちながら、その時期の、その教材で、具体的に何ができるようにするのかを書き足しながら、関連する「力」でつないでいきます。 ・ここからは、年間指導計画をブラッシュアップするならどうできるかを考え、付箋に記入してください。しばらく時間をとった後、意見交換をします。	
補足事項	・この作業を校内ですることで、「作成して終わり」ではない年間指導計画の活用につながります。加えて、児童生徒に身に付けさせたい力を共通理解することができ、それらの力のつながりを意識した実践につながるので、キャリア教育の充実を図ることができます。	

スライド８		
説明原稿例	・年間指導計画を生かすためには、他にどのようなことが必要でしょうか。それは、教員はもちろんですが、児童生徒も意識することです。 ・しかし、児童生徒が自分で気付くことにはなかなか難しさもあります。ここまでの内容を踏まえてお気付きかと思いますが、児童生徒自身の気付きを促す声かけや働きかけが大切です。 ・先ほど付箋を貼った年間指導計画を見て、「これとこれを結び付けさせるために、こんな声かけをすると良さそうだ」と思い浮かんだことはありませんか？また、児童生徒がキャリア教育の視点でつなげられるようにどのような声かけや働きかけができそうですか？ 例　「トライやる・ウィークでの活動を、文化発表会で発表するけれど、人にわかりやすく伝える力は、国語のこの単元でも勉強しましたね。」 ・このように言われることで、児童生徒は「そうか、つながっているな」と学びや気付きをつなげることができます。	
補足事項	・児童生徒はせっかくの気付きやつながりを忘れてしまうことがあるので、それを残しておくために兵庫版「キャリア・パスポート」や「キャリアノート」があります。	

スライド 9		
説明原稿例	・まとめると、このような点を意識することが、年間指導計画の活用につながります。	

スライド 10		
説明原稿例	・お手元の資料をご覧ください。キャリア教育推進のためのカリキュラム・マネジメントの具体例として、中学校・高等学校キャリア教育の手引き P66 に載っている、朝来市立朝来中学校の例が紹介されています。 ・先ほどの年間指導計画は、学校全体のカリキュラム・マネジメントの一部分ですが、考え方は共通しています。	

スライド 11		
説明原稿例	・まとめに入ります。 教育活動をキャリア教育の視点で「つなぐ」ためには、教員があらかじめ、「どの教育活動でどういった力を育みたいのか」を考えておくことが大切です。そして、学校として組織的にキャリア教育を充実させるために鍵となるのが、キャリア教育の視点で「つなぐ」ということです。 ○教育活動をつなぐ キャリア教育の視点で児童生徒に働きかければ、それぞれの教育活動を通じたキャリア教育を展開することができます。つなぐことで、効果的にキャリア教育を進めることができ、それぞれの教育活動の質も高めることができます。既存の「宝」を生かしつつ、改善を図ることができます。 ○校内をつなぐ 教育活動全体でのキャリア教育を計画的に実施していくためには、特定の校務分掌や学年担当の教員にだけ任せるのではなく、全職員で諸活動を体系化し、計画的、組織的に取り組むことが大切です。教員の共通理解を図る上でも、年	

	間指導計画は大切です。 ○校種間をつなぐ 小学校においても生き方を考えさせ、勤労観や職業観を育む様々な取組があり、中学校からキャリア教育がスタートするわけではありません。どのようなことを経験し、どのような力を既に身に付けているのかを意識しながら積み上げていくためにも、年間指導計画が果たす役割は大きいといえます。 ・「つなぐ」一言によってそれぞれの教育活動の関係に気付かせたり、流れの中に位置付けたりすることで、児童生徒の学びを深めることができます。「つなぐ」一言は、キャリア教育の全体計画や年間指導計画の第一歩にもなります。 ・「キャリア教育を通して育てたい資質・能力」を児童生徒と共有し、学校全体で、「つなぐ」を実践し、児童生徒が自分らしく、幸せに生きる力を育めるキャリア教育を推進していきましょう。	

スライド 12		
紹介	・校内研修の目的に応じて、これらの資料をご活用ください。 兵庫県 研修	

https://www2.hyogo-.ed.jp/hpe/gimu/cont_cate/careerpack/

兵庫県教育委員会 ホーム>義務教育課>キャリア教育・進路指導>キャリア教育研修パッケージ

キャリア教育　校内研修用 PPT　研修担当者用資料　3（兵庫県立総合教育センター）